

市「予定通り解体」

折尾駅駅舎 北九州市議会委 保存陳情初審査

日本最古の立体交差駅である北九州市八幡西区のJR折尾駅駅舎の保存活用を求める陳情が18日、市議会建築消防委員会で初審査され、市は改めて解体する方針を示した。陳情は継続審査となった。

駅舎は1891(明治24)年に建設され、1916(大正5)年の増改築で今の形になった。陳情は住民団体「歴史遺産『北九州市レトロ』を創る会」(竹下秀俊代表)が昨年11月に提出。駅舎中央の2階建て部分を曳き家方式で移動させ、仮改札口として保存活用することなど4項目を求めている。

竹下代表は委員会で意見を述べ、「市の西の玄関口であ

る折尾地区の貴重な歴史遺産の保存活用は、喫緊の課題。『折尾レトロ』として観光資源にするには、レプリカでは話題にも観光にもならない」と訴えた。

市折尾総合整備事務所の担当者は、駅舎を解体した後、化粧柱など象徴的な部材を使って複製保存することや、JRが曳き家による移動は仮改札口として利用できるまでに時間がかかり、利用者への影響が大きく経費面でハードルが高いとみていることなどを説明。「今まで通り解体の基本方針に沿ってやっていきたい」と述べた。駅舎解体は自治区会などでつくる「おやお未来21協議会」と検討して方針を出したことも説明し

北九州

報道センター (北九州)
TEL 093・563・1150
FAX 093・563・1173

た。
委員からは「一度立ち止まる検討が必要では」との意見や、「曳き家などのくらくかかるか、検討してはいないか」などの質問が出た。

2011年1月19日(水)
朝日新聞 朝刊